

さくら通信

さくら通信は、皆様とクリニック、そして皆様同士を結ぶ広報誌です。

冬号 第35号

発行日: R4年1月10日

発行者: 佐藤 志津子

編集人: 浜中 さくらクリニック



ご挨拶

さくらクリニック院長

山崎麻央 先生



2021年はまさにコロナ一色でしたね。

皆さんも、予防がだいぶ習慣化してきたのではないかでしょうか。

来年も改めてコロナ対策を周知・徹底し、お互いの安心・安全を守っていくことができれば幸いです。

コロナが与えるダメージは感染症としての脅威もさることながら、不安をきっかけに、心と身体のバランスを崩してしまうことです。

先日ある患者さんが、孫に「おばあちゃんの将来の夢は何？」と聴かれた。いつの間にか将来の夢を考えることさえ忘れていたことに気が付き、思いを巡らせているとわくわくしてきた、孫に未来をもらった気がした、とおっしゃっていました。何歳になっても何か目標や実現したいことを考えたり、なりたい自分を思い描いたりすることはとても素晴らしいことだと思います。

当院は「病氣があっても家で暮らしたい」という思いがある限り、本人、家族のいきがいや価値観を尊重し、選択の決定を共に悩み、支えていきたいという思いで在宅医療を推進しております。コロナという逆風下であっても、我々は力を合わせて前に進むことができるのです。

最後に、コロナ禍で出勤してくれているスタッフへ。心より感謝の意を伝えたいと思います。



退職のご挨拶

深谷純子先生



明けましておめでとうございます！皆様、いかがお過ごしでしょうか。

この度、7年間勤めさせて頂いたさくらクリニックを離れ、シンガポールで生活する事になりました。さくらでの7年間では、患者さんお一人お一人は勿論のこと、ご家族、関係者の皆様からたくさんの方を学ばせて頂き、医師としても成長する事が出来たのではないかと思っております。今回の退職に際しては、ご迷惑をおかけすることも多々あったかと思っておりますが、快く送り出して下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

現在シンガポールに到着し、7日間の隔離生活を過ごしています。キッチンと洗濯機付きのホテルの一室で子供達と缶詰になって過ごすのはなかなか苦労も多いですが、窓から南国の景色を眺め、出られたら何をしようかと話しながら、一日一日指折り過ごしています。折り紙にハマっている息子と、毎日たくさんの作品を折り、レパートリーが随分と増えました。カブトムシにクワガタ、クモ、トンボ、タガメ…こんなにたくさんの生き物が折り紙で作れるのですね。

東京では寒い日が続いていることと思います。どうぞお身体に気をつけてお過ごしくださいませ。またいつかお会い出来ることを楽しみに、皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。



～患者様よりご寄稿～ 「一人暮らし」と「ありがとう」 阿部 和正様



33歳のときALSに罹病して、もうすぐ5年が経つ。発病してから1年後に確定診断を受けたのだが、そのすぐあとに家族性のALSであることも判明した。それがわかったのは、同じ時期に母もALSに罹患したからである。家族内で同時期にALSを発症するのは、なかなか希有な事例だと思う。

現在、母は人工呼吸器を付け、ヘルパーさんに介助してもらいながら、父と福島で暮らしている。ぼくは、確定診断を受けたあと一時的に実家へ帰って生活したが、再び東京に戻り一人暮らしを始めた。ただ、ヘルパーさんが24時間介助に入ってくれているこの生活を、一人暮らしと呼んでいいのかは怪しい。加えて、近所には姉家族と弟も住んでおり、何かあるとすぐ駆けつけてくれる。なおさら一人暮らしとは称せない環境ではあるけれども、しかしこれがALS的「一人暮らし」なのだろう。

そんな「一人暮らし」も一年半が経過した。室内での生活が安定しただけでなく、外出も定期的にできるようになり、「一人暮らし」は少しずつ軌道に乗ってきたと言える。ここまで生活を安定できたのも、周囲の人に恵まれたからにはかならない。ヘルパーさんたちはもちろん、今のはくの生活に関わり、支えてくれている人たちみんなのおかげである。そういう人たちのサポートを当たり前と思わず、感謝する心を忘れないようにしたい。

だからこそ心残りなのは、文字盤を使って話すようになってから、読み取ってもらう労力をつい考えてしまい、「ありがとう」を言わなくなっこことだ。その気持ちは笑顔に託すのだが、伝わっていると嬉しいがどうだろうか。ALS的「ありがとう」を伝える術は、まだまだ発展途上なのである。



さくらクリニック看護師よりお大事に



新型コロナウイルスが流行して早いもので3回目の1月を迎えます。当初の中国株は消え去り次々と変異株が出現しています。WHOのガイドラインで新しい感染症に名前をつけるときに地名や人名を疾患名に含めてはならないとしているため変異株には、昨年5月よりギリシャ文字が使用されていますが、11月末には、ついに15番目のオミクロン株が南アフリカで出現しました。オミクロンは、ギリシャ語で「小さなO(オー)オ・ミクロン」という意味らしいですがその感染力は大きく、日本でも感染がどんどん拡大しています。皆様、「手洗い・マスク・ディスタンス」の基本の感染対策を万全にして新しい年も健やかにお過ごしくださいね！1日も早くコロナが終息しますように。。。

日下美穂 看護師（4月よりさくらクリニックに入職いたしました。どうぞよろしくお願い致します！）

編集後記：あっという間に新年ですね！本年もどうぞよろしくお願い致します。また皆様からの闘病記やお写真、絵画などさくら通信に掲載して頂けるものの募集をしております！医師の訪問時等にお声掛けいただき、直接浜中にご連絡でもお待ちしております。はやくコロナが収まってほしいですね。寒さも続きますので皆様どうぞお体をお大事になさってくださいね。

相談員 濱中祐美

